

現場に根ざしたCSRを通して、 社会的課題の解決と新たな企業価値の創造を目指します。

「三方よし」と 企業理念「豊かさを担う責任」

当社は初代の伊藤忠兵衛が創業して以来、近江商人の哲学である「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」という精神を継承し、ビジネスの場で常に実践してきました。自社の利益だけを追求し、社会の利益をないがしろにするビジネスは長続きしません。お客様も我々も儲かり、持続可能な社会の実現のもと、人々の生活がより豊かで潤いのあるものになれば、自然と当社にも安定的な利益がもたらされるはずで、この「三方よし」の考え方をより大きな次元で捉えたものが、伊藤忠グループの企業理念「豊かさを担う責任」です。

現在は「稼ぎ」の質が問われる時代です。世界中の社員が、ひとつひとつの仕事の社会にとっての意味を見直し、山積する社会的課題に対して、当社の技術や資金を使っていかにアプローチして貢献していくか。個人個人がそういったビジョンを描いていくための土壌を築いていかねばなりません。そして、それが新たな市場の開拓につながり、そこから生まれた優れた製品やサービスを新たな収益のドライバーとしながら成長していくというのが「豊かさを担う責任」のあるべき姿と考えます。当社は、企業理念の確実な実践を表明する意味を込めて、国連グローバル・コンパクトに2009年から参加しています。「三方よし」と「豊かさを担う責任」を常に胸に刻みながら、日々の事業活動を行っていきたいと考えています。

現場力の強化に向けさらなる改革を

当社はこれまで幾多の環境変化を乗り越えてきました。それを可能にしてきたのは、成長する領域をいち早く見極めて、常に足場を「稼ぐ」ことができる市場に求めてきたことです。

成長の種を素早くつかむには、お客様をつかんでいることが重要です。需要がある程度予測できるお客様の存在は、リスクを抑えながら新たなビジネスに進出することも可能にします。

大切なことは、変化を敏感に察知する「感度」を絶えず磨き続けることです。そうすれば、現下の厳しいビジネス環境の中でも、成長市場に新天地を切り拓き続けることができると考えています。

「感度」は「現場」で磨かれます。社会の課題と、当社への期待を考えながらビジネスを創りあげる土壌もまた、「現場」から醸成されます。社内改革を通じ、伊藤忠商事の「現場力」は確実に強化が進んでいます。しかし、盤石な収益基盤を築き上げていくためには、今後も更に強化していく必要があります。現場力の強化に向けた改革に終わりはありません。これからの伊藤忠商事は、社会の課題と期待をビジネスにつなげ、新たな成長ステージでの飛躍を目指していきます。

代表取締役社長

岡藤 正広

